

詳細非公表 安全に懸念

米軍は昨年11月に鹿児島県・屋久島沖で起きた8人死亡の墜落事故を受け、全世界で続いた輸送機オスプレイの飛行停止を解除した。防衛省は在日米軍と自衛隊の保有機の飛行再開に向け、関係自治体への説明を本格化させるが、米側の要請により、事故原因や不具合の詳細はほとんど明かせないとジレンマを抱える。オスプレイの安全性への懸念は根強く、地元の理解をスムーズに得られるかどうかは見通せない。

語りきり

「今回ようやく、米側の説明が合理的だと得心する域に達した」。飛行停止解除の日本同時発表から一夜

明けた9日朝、木原稔防衛相は東京・市谷の防衛省で、日本が緊密に連携してきたアピールした。米軍から説明を受ける場には陸上自衛隊オスプレイの操縦士も同席したと説明した。

ただ事故原因などの詳細は非公表だった。木原氏は、米側の報告書が公開されるまでは米国内法上の制限があるとして「(詳細を)つまびらかにできない部分もある」と指摘。自治体には「もうきりの内容で説明さ

せじこただぐ」と話した。

国内の再開時期に関して、普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)などに多くのオスプレイを配備する米海兵隊の担当者は、事故前の運用準備に戻すまで部隊によつては数ヶ月かかるとの見通しを示す。

準備を3段階に分け、最初に約30日かけて機体の整備点検、次に教官バイロットの再教育、そして試験飛行を実施する。米側は日本政府との調整が終わるまで、普天間のオスプレイが飛行する」とはないと強調した。

主力装備 ベリコpterよりも航続

住民「腹立たしい」「仕方ない」

米軍がオスプレイの飛行再開を決定したことに對し、墜落事故が沖合であった鹿児島県・屋久島の住民からは不満の声が上がった。墜落する瞬間を目撃した漁師中島正道さん(68)は、「あんな危ないものをまた飛ばすのか。結局、具体的な原因は私たちには分からず、腹立たしい」と憤り

た。

「仕方ない。米軍や政府を信頼するしかない」と諦め氣味に話すのは、NPO法人「屋久島うみがめ館」代表の上田博文さん(58)。

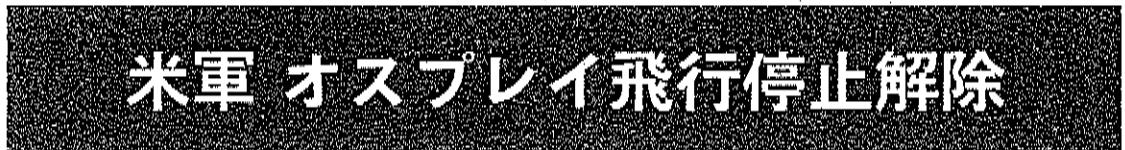
約40キロ離れた馬毛島では、米空母艦載機の陸上離着陸訓練(FCLP)を行なう。頭の上を飛ぶとなるほど不安がある。飛行経路を示し、不安の解消に努めてほ

距離が長く、スピードも速いオスプレイは、海洋進出を強める中国を念頭に九州、沖縄の防衛力を強化する自衛隊の「南西シント」の主力装備だ。陸自は17機を導入予定で、うち14機を千葉県の木更津駐屯地に暫定配備している。

長崎県の相浦駐屯地を拠点とする離島防衛専門の部隊「水陸機動団」の輸送が主な任務となるため、移駐先の駐屯地を佐賀空港(佐賀市)の隣接地に建設中。陸自は昨年2・3月に九州・沖縄で米軍と実施した離島奪還訓練に投入するなど運用を本格化させていた。防衛省は今後、関係自治体に安全対策などを説明し、飛行再開に理解を求める方針だ。だが自衛隊幹部の一人は「手持ちの情報が少ない状態で、住民に理解をしてもらいつづけておられるのか」と本音を漏らした。

う基地の整備が進んでいく。漁師の渡辺和紀さん(75)は「オスプレイも来るかもしれない。米軍には必要なだらうが、また落ちる可能性もあるのではないか」と不安を口にした。

米海兵隊所属の輸送機オスプレイ=昨年11月、沖縄県東村で



米軍 オスプレイ飛行停止解除

防衛省 地元に説明尽くせぬジレンマ

